

## 当病院は

# 「慢性期標的病変再血行再建術回避のための薬剤溶出性ステント 至適拡張の検討～光干渉断層法を用いた検討～」 を行なっています

### 【研究の意義・目的】

虚血性心疾患に対する治療として経皮的冠動脈インターベンション（Percutaneous Coronary Intervention：PCI）を行う際に、血管内超音波法（Intravascular Ultrasound：IVUS）を用いる有用性は多数研究・報告されています。それらの研究においてPCI後にIVUSを用いて計測された最小ステント面積（minimal stent area：MSA）は、ステント内再狭窄の最も強い予測因子の一つであると報告されており、薬剤溶出性ステント（Drug-Eluting Stent：DES）留置9ヶ月時点での標的血管再血行再建術（Target Lesion Revascularization：TLR）を回避するためのMSAは、 $5.0\sim 5.5\text{mm}^2$ とされています。

近年、IVUSより10倍高い解像度を有する光干渉断層法（Optical Coherence Tomography：OCT）を用いたPCIが導入されるようになりました。しかし、その評価には従来のIVUS研究で報告された指標が用いられており、OCTで計測した数値による指標は確立していません。

そこで、本研究ではOCTを用いたPCI症例を後ろ向きに検討し、PCI前の血管性状、PCI後のステント拡張状況およびその内腔性状などを評価し、PCI施行9ヶ月後TLRとの関連について検討を行います。その結果、PCI施行9ヶ月時点でのTLR回避のためのDES至適拡張について評価することを考えています。

### 【研究の対象・期間・内容】

小倉記念病院において2015年8月までに、虚血性心疾患に対しOCTを用いたPCIによりDESを留置した患者さまを対象としています。

ご提供いただく情報は、PCI施行時の患者さま背景、血液検査結果、PCIの概要、OCT解析結果、およびPCI施行9ヶ月時点でのTLRの有無です。通常の診療の範囲内で得られた情報を研究対象としますので、患者さまに日常診療以外の身体的及び経済的負担が生じることはありません。

なお、この研究の責任者は小倉記念病院 循環器内科 安藤献児です。

### 【個人情報の管理について】

個人情報漏えいを防ぐため、お名前、住所などの個人を特定する情報は削除した上で、厳重に管理を行い、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております。ま

た、本研究の結果の公表（学会や論文等）の際にも個人が特定できる情報は一切含まれません。この研究に関わる記録・資料は研究終了後5年間（もしくは公表後3年間）保存した後、適切に破棄いたします。

【利益相反について】

この研究は特定の研究者や企業の利益の為にを行うものではありません。また、この研究により患者さんの利益（効果や安全性など）が損なわれることもありません。

【連絡・問い合わせ先】

この研究に関する相談やお問い合わせ（研究資料の入手方法を含む。）、またはご自身の診療情報につき開示または訂正のご希望がある場合は、下記連絡先までご連絡ください。  
なお、この研究の対象者となることを希望されない場合は、お申し出ください。その場合でも診療上の不利益が生じることはありません。

小倉記念病院 循環器内科 担当者 陣内博行 / 蔵満昭一  
〒802-8555 北九州市小倉北区浅野三丁目2番1号  
電話 093-511-2000（代）